

平成26年度(2014年度)

授業計画

東京藝術大学大学院映像研究科

## 平成26年度 映像研究科開設科目

### 【映画専攻開設専門科目】

履修区分	授業科目名	単位数	教員名	対象学年	開催期	曜日	時間	備考	頁
必修A	映画創造特別演習Ⅰ	4	映画専攻専任教員	1	通年	—	—		1
〃	映画創造特別演習Ⅱ	4	〃	2	〃	—	—		1
必修B	映画表現技術論	2	榎井省志、筒井武文	1	〃	—	—		2
〃	作品・作家研究	2	黒沢清	1	〃	火	1・2		2
〃	脚本研究	2	筒井ともみ 他	1	〃	月	1・2		3
〃	記録映像研究	2	筒井武文	1	〃	—	—		3
選択A	映画表現技術ゼミⅠ	6	黒沢清、筒井ともみ 榎井省志	1	通年	※	※	表現技術領域対象 ※授業時間については、担当教員の指示による	4
〃	映画表現技術ゼミⅡ	6	〃	2	〃	※	※	〃	4
〃	映画制作技術ゼミⅠ	6	柳島克巳、磯見俊裕 長嶌寛幸、筒井武文	1	〃	※	※	制作技術領域対象 ※授業時間については、担当教員の指示による	5
〃	映画制作技術ゼミⅡ	6	〃	2	〃	※	※	〃	5

### 【メディア映像専攻開設専門科目】

履修区分	授業科目名	単位数	教員名	対象学年	開催期	曜日	時間	備考	頁
必修A	メディアデザイン特別演習	2	佐藤雅彦	1	前期	—	—		6
〃	メディアアート特別演習	2	藤幡正樹	1	〃	—	—		6
〃	メディア技術特別演習	2	桐山孝司	1	〃	—	—		7
〃	メディア研究特別演習	2	桂英史	1	〃	—	—		7
必修B	展示計画論	2	佐藤雅彦、桐山孝司	1・2	〃	金	1		8
〃	展示構成論	2	〃	1・2	後期	金	1		8
〃	作品メディア構造論	2	藤幡正樹	1・2	前期	月	1		9
〃	メディア芸術史	2	桂英史	1・2	後期	火	1	『同時代芸術論』から名称変更	9
選択A	コンテンツ創造AゼミⅠ	6	佐藤雅彦	1	通年	—	—		10
〃	コンテンツ創造AゼミⅡ	6	〃	2	〃	—	—		10
〃	コンテンツ創造BゼミⅠ	6	藤幡正樹	1	〃	—	—		11
〃	コンテンツ創造BゼミⅡ	6	〃	2	〃	—	—		11
〃	コンテンツ科学AゼミⅠ	6	桐山孝司	1	〃	—	—		12
〃	コンテンツ科学AゼミⅡ	6	〃	2	〃	—	—		12
〃	コンテンツ科学BゼミⅠ	6	桂英史	1	〃	—	—		13
〃	コンテンツ科学BゼミⅡ	6	〃	2	〃	—	—		13

### 【アニメーション専攻開設専門科目】

履修区分	授業科目名	単位数	教員名	対象学年	開催期	曜日	時間	備考	頁
必修A	立体アニメーション表現特別演習	2	伊藤有壱	1	前期	※	※	※授業時間については、担当教員の指示による	14
〃	アニメーション作品研究特別演習	2	布山タルト	1	〃	※	※	〃	14
〃	平面アニメーション表現特別演習	2	山村浩二	1	〃	※	※	〃	15
〃	企画開発特別演習	2	岡本美津子	1	〃	※	※	〃	15
必修B	アニメーション構想設計論	2	山村浩二、伊藤有壱、布山タルト	1・2	通年	—	—		16
〃	アニメーションサウンド論	2	岸野 雄一、高山博	1・2	前期	—	—		16
〃	アニメーション史	2	イラングエン、大口孝之	1・2	通年	—	—		17
〃	漫画・映画表現論	2	大塚英志、片渕須直	1・2	集中	—	—	『漫画表現論』から名称変更	18
選択A	企画開発ゼミⅠ	6	岡本美津子	1	後期	—	—		18
〃	企画開発ゼミⅡ	6	〃	2	通年	—	—		19
〃	立体アニメーションゼミⅠ	6	伊藤有壱	1	後期	—	—		19
〃	立体アニメーションゼミⅡ	6	〃	2	通年	—	—		20
〃	研究・理論ゼミⅠ	6	布山タルト	1	後期	—	—		20
〃	研究・理論ゼミⅡ	6	〃	2	通年	—	—		21
〃	平面アニメーションゼミⅠ	6	山村浩二	1	後期	—	—		21
〃	平面アニメーションゼミⅡ	6	〃	2	通年	—	—		22

### 【修士課程共通科目】

履修区分	授業科目名	単位数	教員名	対象学年	開催期	曜日	時間	備考	頁
選択B	物語理論	2	大塚英志	1・2	集中講義	—	—		23
〃	現代芸術論	2	松井茂	1・2	後期	水	1		23
〃	マンガ論	2	椎名ゆかり	1・2	集中講義	—	—		24
〃	写真史・写真論	2	—	1・2	休講	—	—	9/8～9/12 ◇隔年開講、H27年度休講	24
〃	メディア表現技法	2	木村稔、馬場一幸、村上寛光	1・2	前期	水	1		25
〃	映像音楽論	2	長嶌寛幸	1・2	後期	木	1		25
〃	国際映画文化論	2	キャレン・セバンズ	1・2	集中講義	—	—	4/9、23、5/14、21、28 の2～4限	26

※『映画音楽論』については、廃止。

### 【博士後期課程共通科目】

履修区分	授業科目名	単位数	教員名	対象学年	開催期	曜日	時間	備考	頁
必修	映像メディア学特別講義	2	藤幡正樹、桂英史、筒井武文	1	前期	水	1		27

## 映画専攻専門科目

科目番号		授業科目名	映画創造特別演習 I	単位数	4	履修区分	必修科目A			
通年		教員名	映画専攻専任教員	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	各領域の映画的創造力および専門技術を向上させ、制作技法についての実験・考察を行なうとともに、共同作業のなかで各専門領域の相互連携を理解し、映画の総合的表现力を追求するための方法論を研究する映画制作演習。夏季と春期にそれぞれ16mmフィルムおよびHDという異なった映像メディアによって行なわれる。									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席(参加)状況および作品の中に示された各領域の専門的創造性・技術力によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	映画創造特別演習 II	単位数	4	履修区分	必修科目A			
通年		教員名	映画専攻専任教員	対象学生	映画専攻2年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	各領域の映画的創造力および専門技術を向上させ、制作技法についての実験・考察を行なうとともに、共同作業のなかで各専門領域の相互連携を理解し、映画の総合的表现力を追求するための方法論を研究する映画制作演習。夏季と春期にそれぞれ16mmフィルムおよびHDという異なった映像メディアによって行なわれる。									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席(参加)状況および作品の中に示された各領域の専門的創造性・技術力によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

# 映画専攻専門科目

科目番号		授業科目名	映画表現技術論	単位数	2	履修区分	必修科目B			
通年		教員名	榎井省志、筒井武文	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	<p>自らを写し出すことを前提として制作されている。今注目を浴びている3Dすらも、一種の視覚的な“だまし絵”という意味では本質的に2次元でしかない。</p> <p>しかし映像・映画作品を実際に制作する場では、絵画のように最初から平面として世界を捉えるのではなく、あくまでも立体的な奥行き感のあるものとして捉え、それが平面として写し出されたときに、いかなる光を、いかなる美しさを、いかなる効果をもたらすかを仮想する研ぎ澄まされた想像力と、立体を平面に取り込むための様々な道具を操る確かな技術力が要求される。</p> <p>映像表現は直観力のみでは具現化されることはなく、そこには常に表現のための技術という触媒が必要とされることは言うまでもない。本講義ではその様々な表現技術を、現場で活躍していく方々とともに明らかにしていく。</p> <p>映画は同時に産業でもある。従ってここでは撮影に関わる現場的な技術ばかりではなく、作品の根幹に大きな影響を及ぼすプロデュースの技術、商業映画として流通させる技術にも目を向けていく。</p>									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席(参加)状況および作品の中に示された各領域の専門的創造性・技術力によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	作品・作家研究	単位数	2	履修区分	必修科目B			
通年	火 1, 2	教員名	黒沢 清	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席状況およびレポートの内容によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## 映画専攻専門科目

科目番号		授業科目名	脚本研究	単位数	2	履修区分	必修科目B			
通年	月 1, 2	教員名	筒井ともみ他	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	<p>映画の脚本と演劇の戯曲の違いは、いったいどこにあるのか。映画が光と影であるとすれば、舞台には実在としての人間がいる。脚本が映画の設計図だとすれば、ではいったいどこで映画は成立するのか。台詞の用いられ方ひとつとっても違いは尽きない。過去の優れたシナリオを読み、主題、表現について考え、討議するとともに、実際に短編、中篇の脚本を書き、完成させる。</p>									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席状況および受講態度によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	記録映像研究	単位数	2	履修区分	必修科目B			
通年		教員名	筒井武文	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

# 映画専攻専門科目

科目番号		授業科目名	映画表現技術ゼミⅠ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年	担当教員の指示による	教員名	黒沢清、筒井ともみ、樹井省志	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	<p>映画は専門的な技術集団による共同作業であることが大きな特徴である。自分が属する職能に習練するのは当然として、他の職能の基礎的理論や職務内容を相互に理解し合うことが、作品の質を高めるとの理念に基づき、夏休み期間中の映画作品制作に向けて、全領域について学習する。主に演出に特化されて授業を行っている。</p>									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席状況およびレポートの内容によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	映画表現技術ゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年	担当教員の指示による	教員名	黒沢清、筒井ともみ、樹井省志	対象学生	映画専攻2年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	<p>映画製作の基本的な概念、著作権概念、音楽等著作権行使の実際、シリオ評価および開発の方法論、マーケティング、国際共同製作などを概括的に学ぶと同時に、現在注目されているプロデューサーたちを招いて、彼らの製作哲学を聞く機会も設ける。監督・脚本・製作者たちが、企画を立て、またそれを検証するに際して必要な発想を実践的に学ぶ。</p>									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席状況およびレポートの内容によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## 映画専攻専門科目

科目番号		授業科目名	映画制作技術ゼミⅠ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年	担当教員の指示による	教員名	柳島克巳、磯見俊治、長嶌寛幸、筒井武文	対象学生	映画専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	<p>映画は専門的な技術集団による共同作業であることが大きな特徴である。自分が属する職能に習練するのは当然として、他の職能の基礎的理論や職務内容を相互に理解し合うことが、作品の質を高めるとの理念に基づき、夏休み期間中の映画作品制作に向けて、全領域について学習する。主に技術に特化されて授業を行っている。</p>									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席状況およびレポートの内容によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	映画制作技術ゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年	担当教員の指示による	教員名	柳島克巳、磯見俊治、長嶌寛幸、筒井武文	対象学生	映画専攻2年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容	<p>撮影照明、美術、録音、編集などの優秀な技術者の作品を鑑賞、分析していく。可能な場合は、その作品の担当者や助手に来ていただき、直接、質疑応答を行う。スタジオ・システムが崩壊している現在では、技術の伝承は緊急の課題になっているからである。</p>									
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。									
成績評価の方法	出席状況およびレポートの内容によって評価									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	メディアデザイン特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A
前期		教員名	佐藤雅彦	対象学生	メディア映像専攻1年生		
授業のテーマ	この講義では、「「新しい表現を生み出す方法」を生み出す」ことを演習テーマとします。						
授業計画及び内容	<p>最初の第一週は、新しい表現を作る方法論とは具体的にどういうものか、ということを講義します。</p> <p>第二週は、与えられた方法論の中から一つの方法論を選び、その方法論にのっとった試作作品をグループで制作・発表。</p> <p>第三週は、別グループを再編して、その中でオリジナルの方法論を模索し作り上げ、それを発表。</p> <p>基本的には、上記のような進め方をするが、履修生の理解習得の進捗度・機材の充実度により、適宜、各段階の細分化や別必要項目の講義に修正することもある。</p>						
教材・参考書	必要に応じて指定します。						
成績評価の方法	新しい方法論に対しての構想力(80%) + 制作力(20%)						
履修上の指示事項	機材の調達や制作進行など、主体的に関わること						
備考(オフィスタワー)	金曜日午後						

科目番号		授業科目名	メディアアート特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A
前期		教員名	藤幡正樹	対象学生	メディア映像専攻1年生		
授業のテーマ	映像について、共通の理解を得るための授業です。普段見過ごしている映像を成り立たせている原理について、演習を通して考えてゆきます。基礎レベルでは、映像を見るなどを今一度強化します。応用レベルでは、さまざまなメディアに対応した構成方法を演習し、創造性と芸術性について学びます。						
授業計画及び内容	<p>グループワーク、2人一組、個人での作業という3つのパターンを想定しています。</p> <p>以下のような3つのアспектについて、実験的な作業を行ってゆき、最後に展示を行う予定です。</p> <p>1)映画、映像、写真 2)編集と上映 3)新しい展示形式とメディアからの視点</p>						
教材・参考書							
成績評価の方法	およそ3回の課題制作と講評を行います。						
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)	基本的に火曜日の午後です。						

# メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	メディア技術特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A			
前期		教員名	桐山孝司	対象学生	メディア映像専攻1年生					
授業のテーマ	コミュニケーション支援のためのプログラミング、データ化、メタデータなどを扱います。									
授業計画及び内容	<p>テーマ1: プログラミング 視覚化のための高機能言語Processingを使って、データの入出力や表示などを行っていきます。</p> <p>テーマ2: データ化 GPSなどのツールを使って、データを収集していくことを行います。</p> <p>テーマ3: メタデータ(XML) 映像、音声、言語などさまざまなデータを見通しよく扱うために、データの意味づけ(メタデータ)が必要になります。XMLを利用してメタデータを扱っていきます。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法	出題、課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	メディア研究特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A			
前期		教員名	桂 英史	対象学生	メディア映像専攻1年生					
授業のテーマ	映像メディアの記録・保存に関するサービス、技術、制度を作品論的な視点から理解する。									
授業計画及び内容	<p>第1週: 受容と表出(1) 広い意味での「映像メディア作品」を数多く見ながら、記録・保存のために必要とされるメタデータの編集・作成を行っていく。</p> <p>第2週: 受容と表出(2) 第1週に続いて、広い意味での「映像メディア作品」を数多く見ながら、記録・保存のために必要とされるメタデータの編集・作成を行っていく。</p> <p>テーマ3: 企画 ネットワークとデジタル技術を基盤としたアーカイブサービスの将来像を企画する。また、その際には技術、制度を総合的な視点から理解しながら、映像展示(ショーアイング)とアーカイブとの関係を考察する。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	展示計画論	単位数	2	履修区分	必修科目B
前期	金1	教員名	佐藤雅彦、桐山孝司	対象学生		メディア映像専攻学生	
授業のテーマ	<p>この講義では、論理的な考え方、しきみの探求、対象のモデル化などを重視して、自分が面白いと思う事象や視点を他人に伝えられる形にすることを試みていきます。</p> <p>展示計画論(前期)では、論理的なモデル化、電子回路、入出力デバイスなどを扱います。</p>						
授業計画及び内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な回路と論理表</li> <li>・論理ゲートで作る回路</li> <li>・マイクロコンピュータ(Arduino)</li> <li>・センサ入力</li> <li>・アクチュエータ出力</li> <li>・PWM制御</li> <li>・シリアル通信</li> <li>・センサとアクチュエータの連動</li> </ul>						
教材・参考書	必要に応じて指定します。						
成績評価の方法	出席、課題、期末試験						
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)	金曜日午後						

科目番号		授業科目名	展示構成論	単位数	2	履修区分	必修科目B
後期	金1	教員名	佐藤雅彦、桐山孝司	対象学生		メディア映像専攻学生	
授業のテーマ	<p>この講義では、論理的な考え方、しきみの探求、対象のモデル化などを重視して、自分が面白いと思う事象や視点を他人に伝えられる形にすることを試みていきます。</p>						
授業計画及び内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無線を使ったセンサ入力(RFID)</li> <li>・データの収集と視覚化</li> <li>・インタラクティブ性</li> <li>・課題制作</li> </ul>						
教材・参考書	必要に応じて指定します。						
成績評価の方法	出席、課題、期末試験						
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)	金曜日午後						

# メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	作品メディア構造論	単位数	2	履修区分	必修科目B			
前期	月1	教員名	藤幡正樹	対象学生	メディア映像専攻学生					
授業のテーマ	<p>映像作品の分析を通して、その背後にある構造について考えて行きます。</p> <p>1) 映画を成り立たせているものは何か。      2) ビデオアートを形成した時代と技術の背景。      3) メディアアートにおける、表層と深層とをつなぐインターフェイスの問題等について論じます。</p>									
授業計画及び内容	<p>作品の構造をみぬいてゆくための手法について</p> <p>1) 課題を与えて、文章を作成してもらいます。      2) 課題をもとに、ビジュアルな資料を作成してもらいます。      3) 授業の中で発表をしてもらいます。</p> <p>最終的に、各人が持つ興味に従って、さまざまな作品をテーマにして、その構造を分解する作業を行います。</p>									
教材・参考書	読んでもらいたい書籍等は、適宜授業の中で紹介します。									
成績評価の方法	各自の調査発表									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)	月曜日の午後									

科目番号		授業科目名	メディア芸術史	単位数	2	履修区分	必修科目B			
後期	火1	教員名	桂 英史	対象学生	メディア映像専攻学生					
授業のテーマ	<p>「映像技術」と「映像表現」の歴史について、主に社会思想史的側面を重視しながら考えます。「メディア表現」は対象や手法はきわめて多様です。日常的な局面から政治や歴史の文脈におよぶ広範囲な対象です。技術革新や市場などと密接な関係があることもあり、一様な歴史観ではとらえられないという点で、芸術史の中でも特殊で未熟な分野です。本講義では、「専門家」「エリート」「国民」「市民」「ユーザ」あるいは「消費者」「アーティスト」といった集団の起源や属性について意識しながら、メディア表現の影響力についてできるだけ多くの観点から論じます。その影響力を解く上で、本講義では近代社会のもとも重要な成立要件のひとつである「信用」をキーワードとして設定します。</p>									
授業計画及び内容	<p>基本的に講義のスタイルを貫きます。おそらく退屈することはないでしょう。具体的には、以下のようない論点を中心に展開していくことになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野での「メディア」のとらえ方</li> <li>・芸術分野における「メディア」について</li> <li>・「メディア」を通じた信用の起源と発展について</li> <li>・「信用装置としての映像」について</li> <li>・「信用」をキーワードに「メディア」「芸術」「表現」について考える</li> </ul> <p>メディア表現の影響力を「信用」という点から考えることによって、「自らの『思考』や『表現』が何を根拠としてどこに向かっているのか」という問い合わせ自分自身に突きつけてもらえばと思います。テキストはまったく使いません。ただ、折に触れて関連する映像作品や芸術作品を参照することもあります。少人数制であることを十分考慮して、ひとりひとりの問題意識に響くように講義の展開を配慮します。適宜本講義のテーマに関する自らの意見を積極的にプレゼンテーションしてください。</p>									
教材・参考書	まったく使いません。参考すべき文献や作品等は、適宜授業の中で紹介します。									
成績評価の方法	講義中の様子(50%)レポート(30%)各人のキャラクター(20%)									
履修上の指示事項	メディア映像専攻学生は必修科目です。すべては「参加」から始まります。火曜日の午前中にお会いしましょう。									
備考(オフィスタワー)	原則として月曜日の午後にお待ちしています。									

## メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	コンテンツ創造Aゼミ I	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	佐藤雅彦	対象学生	メディア映像専攻1年生					
授業のテーマ	各個人の作品制作におけるテーマの追求。それは、とりもなおさず、修了制作への礎を築くことになる。									
授業計画及び内容	<p>最終的な目的である各個人のテーマの追求をするのに、習作の制作を繰り返し、それを毎回、深く検討していく。言語化するのが通常難しい個人個人の希求や方向性を習作という形で外在化させることにより、発見していく。 具体的には、2週間目安にひとつの習作、あるいは企画構成のラフ絵を発表・説明してもらう。また同時に、その進捗状況を10月の夏期成果発表会、11月の中間講評会、1月の一年次成果発表展示という別の形で発表できるようにスケジューリングする。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法	隔週単位で行う発表内容と10月・11月・1月時の各段階に於ける提出作品									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)	金曜日 午後									

科目番号		授業科目名	コンテンツ創造Aゼミ II	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	佐藤雅彦	対象学生	メディア映像専攻2年生					
授業のテーマ	各個人の作品テーマの下で、修了作品に向けた継続的かつ発展的な制作を進行させる。それと同時に、為してきたことの言語化とそれを踏まえた更なる発展的な制作も目的とする。									
授業計画及び内容	<p>基本的には、隔週ごとに修了制作の進捗状況の説明と実制作の途中経過の発表を行ってもらい、それに対して、一緒に考察し、更なる方向性の確認をする。7月の中間審査会、10月の経過報告会、11月末の事前審査会、1月の修了制作展の予定も組み込んだスケジュールで、このゼミの進行は行われる。ただ、必要に応じて、また履修生の制作の進捗状況に応じて、ゼミ主体で世の中に投げかけるプロジェクトを企画する場合もあるが、あくまで個人の修了制作に向けた作品制作が一義である。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法	隔週単位で行う発表内容と修了制作									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)	金曜日 午後									

## メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	コンテンツ創造BゼミⅠ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	藤幡正樹	対象学生	メディア映像専攻1年生					
授業のテーマ	作品制作のプロセスについて、実作をとおして、ディスカッションしながら、ともに考えてゆきます。									
授業計画及び内容	<p>年度によって日程は異なるが、10月の夏期成果発表会、11月の中間講評会、1月の一年次成果発表展示に向けて、企画構想、制作実現、展示講評というスケジュールを身につけ、他者の視線を養う。</p> <p>また、考え方の進め方や、技術的なサジェストについて、その都度ディスカッションしてゆく。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスター)										

科目番号		授業科目名	コンテンツ創造BゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	藤幡正樹	対象学生	メディア映像専攻2年生					
授業のテーマ	修了制作に向けて、自己の中にある問題提起を再確認することから、それを表現へ転化させてゆくプロセスについてさらに実作を通して学ぶ。1年次までの活動を振り返り、客観的な視点を養う。									
授業計画及び内容	<p>年度によって日程は異なるが、以下のスケジュールに従って、段階的に作品制作を行い、作品の制作を通して客観的な視点を獲得することを主だった目的とする。</p> <p>4月修了制作案の提出に伴う個人面談。修了作品に関する最初の案を持って望む。プランニング。</p> <p>7月中間審査会。外部に開かれた発表の場であり、学外の他者の視線を意識する。実験と分析</p> <p>10月経過報告会。夏期の成果を報告。思考と試作展開</p> <p>11月末事前審査会。学内での展示。展示での問題発見と解決に向けた実践。</p> <p>1月修了制作展。学外の他者(観客)に向けた、メッセージを公表する場。</p> <p>履修する学生は、修了制作に向けて、すでに制作したい作品のアイデアを持っている必要がある。この研究会の主たる目的は、個人的あるいは内的なテーマや表現を、他者と共有できるものにしてゆくためのトレーニングの場として位置づけている。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスター)										

## メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	コンテンツ科学Aゼミ I	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	桐山孝司	対象学生	メディア映像専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスター)										

科目番号		授業科目名	コンテンツ科学Aゼミ II	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	桐山孝司	対象学生	メディア映像専攻2年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスター)										

## メディア映像専攻専門科目

科目番号		授業科目名	コンテンツ科学Bゼミ I	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	桂 英史	対象学生	メディア映像専攻1年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスター)										

科目番号		授業科目名	コンテンツ科学Bゼミ II	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	桂 英史	対象学生	メディア映像専攻2年生					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスター)										

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	立体アニメーション表現特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A			
前期	担当教員の指示による	教員名	伊藤有壱	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	グループワークによる立体アニメーション習作を制作する。									
授業計画及び内容	<p>立体アニメーション作品における企画、造形、撮影、編集の各工程をおよそ1週間ずつかけて習作を制作。グループワークスタイルを探る事で本来の連携制作方式を一部体験しながら各自に必要な技術ポイントを認識し、これを向上させる。</p> <p>別途「クレイ」「関節」をモチーフに演習課題提出あり。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法	必要に応じて配布、指定します。									
履修上の指示事項	出席と課題									
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	アニメーション作品研究特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A			
前期	担当教員の指示による	教員名	布山タルト	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>各々の立ち位置を歴史的流れと同時代的な見取り図の上でとらえること</li> <li>アニメーションをめぐる概念の学びほぐしと、遊びによる可能性の模索</li> </ol>									
授業計画及び内容	<p>ディスカッションとワークショップを中心に授業をすすめる。</p> <p>具体的な内容例は以下の通り:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文献研究と作品分析</li> <li>問題発見手段としての他者へのインタビュー</li> <li>アニメーションの技法をめぐるワークショップ</li> </ul>									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定する。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	平面アニメーション表現特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A			
前期	担当教員の指示による	教員名	山村浩二	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	フレーム(画面とコマ数)やコンポジション(画面構成と時間軸での構成)など、アニメーションの基本的な概念と、アイディア、タイミングなど創作の基礎の認識を深める。									
授業計画及び内容	<p>第1週: 映画、映像の基本的概念の短い講義と、「アイデアを絵にする」課題。</p> <p>第2週: アニメーション・ソフトウェアのワークショップとその習得のための第2の演習課題。</p> <p>第3週: アニメーションのタイミングについての講義と、「自立した動き」「依存した動き」に関連した第3の課題。</p> <p>第4週: ドローイングによるアニメーションの最後の課題。</p>									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	企画開発特別演習	単位数	2	履修区分	必修科目A			
前期	担当教員の指示による	教員名	岡本美津子	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	着想と発想そして構想への「企画立案」、メディアの特性に応じたウンドウコントロール、プロモーションなどの「メディア設計」、予算、著作権、契約などの「マネージメント」など、アニメーション製作に必要な知識と方法論を、具体的な企画をケーススタディを通して習得する。									
授業計画及び内容	<p>修士一年次作品企画を実際に作成するプロセスを通して、次の項目の方法論、実践的なスキル、知識を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①「企画立案」着想方法、リサーチ、マーケティングの必要性</li> <li>②「企画、企画書」企画案作成から企画書までの方法論</li> <li>③「ブリプロダクション」シノプシス、構成、脚本、イメージボード、絵コンテまで</li> <li>④「予算」「スケジュール」「展開」予算、スケジュールの考え方、2次展開</li> <li>⑤「権利」著作権、音楽著作権など、作品づくりに必要な権利についての知識(外部講師(弁護士)による)</li> <li>⑥「プレゼンテーション」企画、考えの伝達の方法論</li> </ul> <p>・外部アニメーション監督、プロデューサー等による講義</p>									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	アニメーション構想設計論	単位数	2	履修区分	必修科目B									
通年		教員名	山村浩二、伊藤有壱、布山タルト	対象学生	アニメーション専攻学生											
授業のテーマ		アニメーションの物語世界における演出プランを構築して行く上でのさまざまな必要条件を実践的に考察する。また現代メディアとそのコンテンツの動向と将来像を具体的な事例をもとに考察していく。適宜、アニメーション作家、プロデューサー等を招き、テーマにそった講演も開催。														
授業計画及び内容		<p>山村浩二: 全8回、アニメーションにおける主要な構成要素、「リピート」、「パースペクティブ」、「メタモルフォーゼ」、「メタファー」、など毎回テーマごとにセレクトしたアニメーション作品を鑑賞しながら、文学、音楽、詩など他のメディアとの比較、考察を講義しながら、アニメーションの特性とアニメーション制作の有効な方法論を探る。</p> <p>講義の最後にレポート課題を予定。また後期に外部講師によるアニメーション理論の講義を3回予定。</p> <p>伊藤有壱: 全2回、「立体アニメーション」について伝統的な作品系譜から広義のそれまでを作品例をあげ、時に鑑賞しながら技法のみならず俯瞰、解説する。</p> <p>布山タルト: 全2回、映画およびテレビ以外のメディアにおけるアニメーション表現に関するケーススタディを行う。</p>														
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。															
成績評価の方法	出席と課題															
履修上の指示事項																
備考(オフィ斯塔ワー)																

科目番号		授業科目名	アニメーションサウンド論	単位数	2	履修区分	必修科目B									
前期		教員名	岸野雄一、高山博	対象学生	アニメーション専攻学生											
授業のテーマ																
授業計画及び内容		“映像表現とはつまり、人間の五感のうち、視覚と聴覚のみを抽出し、フレームを持った平面に落とし込み、時間軸上に示す事といえます。そこでは視覚と聴覚による様々な作用／反作用が起こります。この講義では、どちらかに偏って思考しがちな「音」と「映像」の関係について、歴史上に蓄積された技術や方法論を体系化し、今日のフォーマットに照らし合わせながら考察していきます。														
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します															
成績評価の方法																
履修上の指示事項																
備考(オフィ斯塔ワー)																

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	アニメーション史	単位数	2	履修区分	必修科目B
通年		教員名	イラン・グエン、大口孝之	対象学生		アニメーション専攻学生	
授業のテーマ	アニメーション映画史の中から短編を主な対象に、作品と作り手を中心に置き、日本と世界の流れを時代毎に概観するとともに、その関係のあり方を考察する。						
授業計画及び内容	<p>アニメーション史への取り組み方と授業の仕組み／アニメーション映画の始まり／カートゥーンと漫画映画／長編の登場とその継承／戦中と戦後の間／1950年代の「新しいアニメーション」の成立過程とその源流／1960年の転換点：対立的構造の成立／アニメーション界とその自意識の変容など</p> <p>◇第1週 アブストラクト・アニメーションとモーション・グラフィックス 視覚と聴覚を融合した表現として誕生し、抽象芸術の動画版として発展したアブストラクト・アニメーション。オスカー・フィッシンガー、ジョン・ウイットニージョーダン・ベルスン、ノーマン・マクラレンといった代表的作家を紹介すると共に、ソール・バス、ロバート・エイブルなどが商業的なモーション・グラフィックスへと応用していった歴史も検証。</p> <p>◇第2週 コンピュータ・アニメーション スケッチパッドに始まり、ユタ大学、ゼロックス・パロアルト研究所、ニューヨーク工科大学、トリップルI、MAGI、ロバート・エイブル、ルーカスフィルム、ピクサー・アニメーション・スタジオと発展してきたコンピュータ・アニメーションの歴史を解説すると共に、これから公開されるCG映画の最新情報などを紹介する。</p> <p>◇第3週 3D映像の歴史 近年急速に盛んになった立体映画や、3Dテレビ、3Dゲームなど、アニメーション制作者にとってこの分野は無視できない存在になっている。この授業では、その歴史、原理、今後の展開について解説し、世界最大の量を誇る講師の立体映画資料コレクションを紹介する。</p> <p>◇第4週 3D映像制作の方法 実際に立体映像を自分で制作するにあたって、その撮影方法、CG技術、上映・鑑賞の手法などについて解説する。またその注意点や人体に与える影響についても触れる。さらに近年盛んになりつつある2D/3D変換技術についても紹介する。</p> <p>◇第5週 VFXの歴史と技術 現在の映画やテレビ番組、ミュージック・ビデオなどにおいて、VFX(視覚効果)の使用は必須となっている。では、その技術はどのように発展してきたのか。基本的な技術を学ぶことで、アニメーション表現の新たなヒントが生まれる可能性がある。</p>						
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。						
成績評価の方法	出席と課題						
履修上の指示事項							
備考(オフィスター)							

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	漫画・映画表現論	単位数	2	履修区分	必修科目B
集中		教員名	大塚英志、片渕須直	対象学生		アニメーション専攻学生	
授業のテーマ							
授業計画及び内容							
教材・参考書							
成績評価の方法							
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)							

科目番号		授業科目名	企画開発ゼミ I	単位数	6	履修区分	選択科目A
後期		教員名	岡本美津子	対象学生		アニメーション専攻1年生	
授業のテーマ	作品制作のプロセスの中でも「企画」に重点を置き、「研究・リサーチ」から「創作」へと繋がる「企画」の方法論を確立することをめざす。						
授業計画及び内容	<p>修士一年次作品と並行して、下記の方法論で「企画研究」を行っていく。</p> <p>「作品研究」「事例研究」…作品や社会で起きている事例等をとりあげ、何が‘面白い’のか、何が‘よい’のか、を分析的に抽出するために、言語化して考える。</p> <p>「応用・適用」…上記の面白さやよさを、アニメーションや映像作品にどう定着させていくかを考える。</p> <p>「シミュレーション」…実験映像制作を行う。</p> <p>その他、プロジェクト活動として、新しいメディアへのコンテンツ制作、内外との共同制作、他の専攻分野とのコラボレーション、新しいプロデューススキームの確立なども行う。</p>						
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。						
成績評価の方法	出席と課題						
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)							

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	企画開発ゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	岡本美津子	対象学生	アニメーション専攻2年生					
授業のテーマ	修了制作を通じた「企画」の実現プロセスと、その後の展望									
授業計画及び内容	<p>修了制作のプロダクションプロセスでは、特に次の方法論に重点を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアフラッシュによる企画の絞り込み</li> <li>・比較による最適方法の選択</li> <li>・ゼミ内ディスカッション等による客観的視点の保有</li> <li>・計画的スケジュールによるクオリティアップ</li> </ul> <p>また、修了作品制作後の次まで見据えたトータルのセルフプロデュースの元に修了制作を位置づけるべく、個別指導を行っていく。</p> <p>プロジェクトとして、プロデューサーのネットワークおよびプロデューサー論の確立をめざした公開講座「現代映像プロデュース論」や、アニメーションを用いたイベントや他分野との共同制作や研究を行うことで、将来に向けた自己の社会でのスタンスを探る。</p>									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	立体アニメーションゼミⅠ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
後期		教員名	伊藤有壹	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	1年次修了制作の指導を中心に、立体を中心としたアニメーション表現の基礎技術確立と、作品完成フロー研究の両面を学ぶ。									
授業計画及び内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体を中心としたアニメーション表現ならではの企画、設定、演出技術の研究と実践。</li> <li>・素材、技法研究および、作品完成フロー体験各行程での指導。</li> <li>・作品鑑賞とテーマ及び技法の解析(レポート及びグループディスカッション)</li> <li>・1年次修了制作の具体的指導。</li> </ul>									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	立体アニメーションゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	伊藤有壹	対象学生	アニメーション専攻2年生					
授業のテーマ	2年次修了制作の指導を中心に、立体を中心としたアニメーション表現の応用技術確立と、作品完成フロー研究の両面をさらに進化させる。									
授業計画及び内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・立体を中心としたアニメーション表現ならではの企画、設定、演出技術の研究と実践。</li> <li>・素材、技法研究および、作品完成フロー体験各行程での指導。</li> <li>・制作上必要なテーマに焦点をあてた現場の見学及び高等技術者によるレクチャー。作品鑑賞。</li> <li>・2年次修了制作の具体的指導。</li> </ul>									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	研究・理論ゼミ I	単位数	6	履修区分	選択科目A			
後期		教員名	布山タルト	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	アニメーション研究を他の研究領域と交錯させ、あらたな問題発見や研究手法の開発を行う。作品制作を目指す学生に対しても領域横断的な発想を促し、既存の表現に対するブレイクスルーをもたらすことを目指す。									
授業計画及び内容	各々の研究テーマや制作テーマに沿った指導を行う。研究者を目指す学生に対しては、文献収集やデータベース作成等、研究者としての基本的なスキルの指導を適宜行う。作品制作を目指す学生に対しては、必要に応じた技術指導を適宜行う。									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	研究・理論ゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	布山タルト	対象学生	アニメーション専攻2年生					
授業のテーマ	修了制作におけるテーマの深化と独創的なアニメーション表現の追求									
授業計画及び内容	参加メンバーの要望に応じた柔軟な指導体制をとるが、基本的にはディスカッションを中心とした個別の修了制作指導を行う。									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	面談の内容から判断する。									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	平面アニメーションゼミⅠ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
後期		教員名	山村浩二	対象学生	アニメーション専攻1年生					
授業のテーマ	平面アニメーションの基礎と、表現の幅を広げる。 作品をつくる意味と必然を探る。									
授業計画及び内容	発想とそれをまとめあげる企画力の強化。 アニメーションにおける技法と画材、画面構成と動き(Motion)の研究。									
教材・参考書	必要に応じて配布、指定します。									
成績評価の方法	出席と課題									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## アニメーション専攻専門科目

科目番号		授業科目名	平面アニメーションゼミⅡ	単位数	6	履修区分	選択科目A			
通年		教員名	山村浩二	対象学生	アニメーション専攻2年生					
授業のテーマ	平面アニメーションの総括。アニメーション表現の探求と実践。									
授業計画及び内容	修了制作の指導。アニメーション表現の追求。映像のポストプロ作業の実践。それぞれ一人アニメーション作家を取り上げてテーマをもうけた研究（論文）を行う事で、自身の創作の意義をみつめる。									
教材・参考書	適宜									
成績評価の方法	出席と論文									
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## 共通科目

科目番号		授業科目名	物語理論	単位数	2	履修区分	選択科目B
集中		教員名	大塚英志	対象学生		映像研究科全専攻	
授業のテーマ							
授業計画及び内容	<p>「STAR WARS」の脚本制作に神話学者のキャンベルが『千の顔を持つ英雄』で示した神話の構造が用いられていることは余りに有名だが、文化人類学及び文学理論としての物語論は八〇年代にその知的流行を終えた後、ハリウッド映画ではシナリオ創作の理論として再構築されている。講義はロシアフルマリズムに始まる物語論を概説しつつ、物語が一定の文法的秩序からなることを「物語の構造に従って創作する」課題を介して身につける。</p> <p>また、大塚が自作の映画化企画でリアルタイムで経験しているハリウッドの「デベロップメントステージ」の実情についても概観する。</p>						
教材・参考書	必要に応じ、授業時間内で紹介する。						
成績評価の方法	出席状況およびレポートの内容によって評価						
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)							

科目番号		授業科目名	現代芸術論	単位数	2	履修区分	選択科目B
後期	水 1	教員名	松井 茂	対象学生		映像研究科全専攻	
授業のテーマ	<p>「現代芸術」を自明に存在するものと考えずに、「現代」を問うことを通じて、「現代芸術論」を検証することがテーマである。具体的には、作家個人、作品個別の事例よりは、メディア技術の発展や社会動向との影響関係を考察することから「現代」や「芸術」を考察する。第2次世界大戦後の時代状況と芸術をめぐるコンテクストを再検討し、制作、研究に活かせる、意味批判能力(メディア・リテラシー)を身につけたい。</p>						
授業計画及び内容	<p>授業内容としては、以下の3つのテーマを基盤としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1950、60、70、80、90年代のテレビ番組を通じて、マス・メディアの映像表現の変遷を検証する。</li> <li>・マス・メディアをインフラストラクチャーとした戦後の社会環境における芸術の意味を検証する。</li> <li>・近年の展覧会を社会、歴史、美学的観点から議論する(担当キュレーター等をゲストとして随時招く)。</li> </ul>						
教材・参考書	教科書、参考書は適宜、配布ないし指定する。						
成績評価の方法	出席数、履修態度、課題提出の内容を総合的に評価する。						
履修上の指示事項	授業の進捗状況等により授業計画及び内容は変更することがある。						
備考(オフィスタワー)	授業後、もしくは、メール(shigeru@td5.so-net.ne.jp)で問い合わせること						

## 共通科目

科目番号		授業科目名	マンガ論	単位数	2	履修区分	選択科目B			
集中		教員名	椎名ゆかり	対象学生	映像研究科全専攻					
授業のテーマ	日本及び海外における日本マンガの需要の変遷									
授業計画及び内容	<p>21世紀に入り、海外における日本のマンガに対する人気はマスコミ等でしばしば報じられ、それと呼応するようにマンガは日本の誇り得る文化として語られることが多くなった。</p> <p>しかしマンガは日本国内で昔からこれほど文化的地位が高かったわけではない。</p> <p>本講義では日本のマンガの歴史を振り返るとともに、日本の社会の中でマンガがどのようなものとして語られてきたのか、そして海外での人気がどのようにマンガへの日本国内の認識に変化を与えたか等、社会的、文化的受容の変遷にも焦点を当てて、マンガというメディアの理解を深めることを目的とする。</p>									
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

科目番号		授業科目名	写真史・写真論	単位数	2	履修区分	選択科目B			
集中		教員名	甲斐 義亮	対象学生	映像研究科全専攻					
授業のテーマ										
授業計画及び内容										
教材・参考書										
成績評価の方法										
履修上の指示事項										
備考(オフィスタワー)										

## 共通科目

科目番号		授業科目名	メディア表現技法	単位数	2	履修区分	選択科目B
前期	水 1	教員名	木村稔、馬場一幸、村上寛光	対象学生		映像研究科全専攻	
授業のテーマ	複合的なメディア環境での研究制作活動の基盤づくりとして、メディア表現の基礎について講義と演習を通して学ぶ。						
授業計画及び内容	<p>文字の発明から印刷技術の誕生や写真、映画、アニメーションなどについての歴史的な考察とともに、その技術や表現技法の解説や思考訓練的な演習などを行う。</p> <p>主なトピックとして 印刷技術の誕生／文字を知る／映像表現と文字／写真技術と表現／編集する／表現と場／撮影照明技術／音を考える／アニメーション表現技法</p>						
教材・参考書	参考となる文献等は、授業の中で紹介します						
成績評価の方法	出席および課題提出						
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)	平日午後						

科目番号		授業科目名	映像音楽論	単位数	2	履修区分	選択科目B
後期	木 1	教員名	長嶌寛幸	対象学生		映像研究科全専攻	
授業のテーマ	映画館から携帯まで、現在の私達を取り巻く映像／音響環境は多岐に渡るようになった。「映像音楽論」では、「映像、そして音響テクノロジーの進歩が音楽に与えた影響」をテーマに、映像作品に付帯する音楽を作品ごとに分析、検証し、「映像音楽」の未来について考える。						
授業計画及び内容	<p>授業は講義と教員による実演を中心に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽録音／ミックス技術の歴史</li> <li>・ 音楽家研究／作品分析</li> <li>・ 映像作品に音楽をつける作業の実演、分析</li> </ul>						
教材・参考書							
成績評価の方法							
履修上の指示事項							
備考(オフィスタワー)							

## 共通科目

科目番号		授業科目名	国際映画文化論	単位数	2	履修区分	選択科目B				
後期	集中	教員名	キャレン・セバンズ	対象学生	映像研究科全専攻						
授業のテーマ											
授業計画及び内容		<p>Course philosophy and goals</p> <p>This course is designed to provide students with an immersive English-language environment in which to hone skills and tools that will aid them in their filmmaking careers, in Japan and/or overseas. We will focus on improving analytical skills, sharpening storytelling techniques, enhancing creative expression and broadening their international horizons. By the end of 20 hours, each student will have completed [a detailed pitch/a detailed international release strategy] which can be applied to real-world [pitches/sales], and created a format that can be reused whenever the need arises.</p> <p>日本または海外で、自分の映画キャリアを支援するスキルやツールを磨くため、学生に英語環境を提供します。学生たちは、分析能力を向上させる話術を磨き、創造的な表現方法を身につけ、その国際的な視野を広げることに注力していきます。20時間の終わりまでには、各学生は、[ピッチ手法]を現実世界に適用していきます。その結果、[ピッチ]を通じて、必要となったときに再利用できる完成したフォーマットを自ら作成します。</p> <p>なお授業は英語がほとんどできない学生でも理解できるように工夫されています。</p> <p>開催時間 4/9、23、5/14、21、28 の2~4時限</p>									
教材・参考書											
成績評価の方法											
履修上の指示事項											
備考(オフィスタワー)											

# 博士課程開設科目

科目番号	201	授業科目名	映像メディア学特別講義	単位数	2	履修区分	必修科目			
前期	水 1	教員名	藤幡正樹、桂英史、筒井武文	対象学生	博士後期課程学生					
授業のテーマ	「映像メイノ字」について講義する。これまでのよつね受け手側からの批評や理論ではなく、作り手やプロデュースという立場からの作品創造論を展開するための理論的なアプローチについて講義する。									
授業計画及び内容	<p><b>【藤幡正樹】</b> 映像メディアを作り手の道具として位置づけ、その道具を通じた技術・技法・技巧についての分析を行いながら、制作者の立場から技術と作品創造の関係性について講義を行う。</p> <p><b>【桂英史】</b> 映像メディア学の背景となっている「メディア論」や「メディオロジー」あるいは「文化研究」の立場から、映像メディア学の学問的な背景について講義を行う。</p> <p><b>【筒井武文】</b></p>									
教材・参考書	随時指示する									
成績評価の方法	出席とレポート									
履修上の指示事項	特になし									
備考(オフィスタワー)	原則として水曜日午後に各自指導教員にコンタクトをとること									